

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	江東区東砂6-16-1
施設名	もりのなかま保育園東砂ひよこ園

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

日常にある物や事象に対する探究

〈テーマの設定理由〉

普段の保育の中で日常にある物や事象に対して、一つに焦点をあて、その物や事象を多角的な視点から捉え、より好奇心が芽生え楽しむことができる。今回日常的な物や事象をテーマに選んだ理由は、そこに子ども一人一人の興味関心を反映させることで、子どもの好奇心を受け止め、引き出し、新たな発見に導き出せると考えたからです。

2 活動スケジュール

4月 「日常にある物や事象に対する探究」～ゼラチン～
5月 「日常にある物や事象に対する探究」～風船～
6月 「日常にある物や事象に対する探究」～コーンスターチ～
7月 「日常にある物や事象に対する探究」～圧縮袋と水～
8月 「日常にある物や事象に対する探究」～水～
9月 「日常にある物や事象に対する探究」～布～
10月 「日常にある物や事象に対する探究」～光～
11月 「日常にある物や事象に対する探究」～磁石～
12月 「日常にある物や事象に対する探究」～トイレットペーパー～
1月 「日常にある物や事象に対する探究」～アルミホイル～
2月 「日常にある物や事象に対する探究」～ゴム～
3月 「日常にある物や事象に対する探究」～花～

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

- ・粉類や酢、重曹、食紅、油等子どもの身近にある興味のある素材。
- ・トレーやマドラー、カップ、スポイト等、子どもが使いやすい道具。
- ・安全面を確認し、安心して安全に活動が行えるような環境構成。

4 探究活動の実践

〈活動の内容〉

子どもたちが興味を持てる日常にある素材や事象をテーマに決め、毎月複数回の活動を行っていった。混ぜる、触る、匂いのかぐ中で「なんだろう?」「どうしてだろう?」の表情や言葉を写真やメモにして、職員同士でも振り返りを行いながら、子どもの発見や、ワクワクした表情に気づき、次のテーマへと発展させていった。保護者には連絡帳や口頭の他に、玄関にドキュメンテーションを作成して子どもたちの様子を共有した。

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

初めは、なかなか触ることができず躊躇する様子もうかがえたが、保育者が触ってみたいり嗅いでみたいりすることで安心して、自分たちもやってみようとする様子が見られた。触れた経験から積極的にやってみようという思いが生まれ、自分たちから触れるようになってきた。「なんか～みたい」「〇〇ちゃんどうなった?」などの会話も聞かれるようになり、小さい子も大きい子がしている姿を見て”触ってみたい”という気持ちが芽生えてきた。保育者もその場で発見したことを子どもたちと共有することでさらに発見が広がっていた。使う道具などにも興味を持って「もっと使ってみよう」という意欲が見られ、保育者もサポートをしながら子どもたちの意欲や興味を引き出すことができた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

0～2歳児のため、難しいと思ったテーマでも、子どもたちが意外な視点で興味を持って集中したり、発見を楽しんだりすることがあり、保育者もその反応に驚くこともあった。子どもたち一人一人の興味が違うため、会話もいろいろな言葉が出ていた。2歳児が中心となり楽しんでいることで、小さい子もやってみようという興味が引き出され、援助しながらやってみることでみんなが主体的に楽しんでいた。友だち同士での発見の伝えあいも、どんどん広がっていき、そこから遊びの中での探究心や好奇心、協同性に繋がっていった。